

会員数 59名 出席者45名・欠席者11名・免除会員5名  
欠席者 有家・麻田・天野・和泉享・中野昌・松山・大山・岸上・林・高岡  
曾川-会員

前々回出席率 78.6% (12/17)

## MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 岡田 将一郎  
幹 事 陶国 栄婦  
会報委員長 福田 洋子

## お知らせ

## 2月のプログラム

4 (No.1)-会員卓話(リモート)  
11 (No.2)-休会  
18 (No.3)-クラブフォーラム(リモート)  
25 (No.4)-休会

## 他RC例会変更

丸亀東 1/19~2/9まで休会

## ニコニコBOX;なし

<ニコニコ会計累積/¥220,000>

## がんばるBOX;なし

<がんばる会計累積/¥295,000>

例  
会  
場  
・  
事  
務  
局丸  
亀  
市  
塩  
飽  
町  
50  
-  
3  
丸  
亀  
プ  
ラ  
ザ  
ビ  
ル  
5  
F

## ■会長挨拶

皆さん、こんにちは。今回の例会も前回に引き続き、リモート例会です。

来週の木曜日は建国記念日で例会自体は初めから休会ですが、この日は毎年恒例のロータリー杯ミニバスケットボール大会があります。今年は、開催が危ぶまれましたが、対策を施して開催することとなりました。主催は、丸亀バスケットボール協会ですので、協会の判断として行います、ロータリークラブとしてはスポンサーですので、その趣旨に従い共催することとしました。丸亀東ロータリークラブはスポンサーを降りましたので、今年からは丸亀ロータリークラブ単独のスポンサーとなります。当日は、会長の私が挨拶をする程度です。小学生の活躍を楽しんで観戦したいと思います。

さて、今回の例会も、リモート例会で開催ですが、皆さんの出席については免除とさせていただきます。休会は来月2月11日まで続きます。今日理事会も開催いたしますので、今後の活動については、理事会決定後、皆様にもご案内したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

## ■理事会報告

①今後の例会運営について 2/25まで休会とし、18日はリモート例会を行う。出欠はとらない。

②2~4月のプログラムについて 4/7の合同観桜会、4/15の職場例会について議論。

③善行表彰について 3/6(土)感染防止対策を徹底して予定通りミモカで開催。集合写真はなし。スナップ写真のみ。

④ガバナー選出について 理事会の推薦でガバナーを選出することに決定。次回以降の理事会で決定する。

⑤新入会員について 山本由臣(やまもとよしふみ)氏の入会が承認される。3/6の善行表彰式からの出席予定。所属委員会は親睦委員会、環境保全委員会の両委員会に決定。

## ■例会事業;会員卓話(リモート例会)

## 谷川会員

本日は、「2020年観光業界の実態」についてお話をさせていただきます。昨年1月より新型コロナウイルス感染が全世界に広がり、いわゆるパンデミック期となりました。日本国に於いても4月に緊急事態宣言の発出がなされ、不要不急の外出は自粛。対面店舗に対しては休業要請、学校は休校...。3蜜を避け静かな生活を余儀なくされたのであります。

その様な生活スタイルの中、観光産業においては海外・国内市場ともに大打撃を受けてしまいました。国際航空路線の休止・観光施設休園・各イベント(興行)の中止・とりわけ東京オリンピック・パラリンピックの開催延期は関係機関にとっては計り知れないダメージを受けることとなりました。

2003年より「観光立国」を国家戦略としたV.J(ビジット・ジャパンキャンペーン)：

訪日外国人を計画的に倍増させることを目的。当時、年間520万人程であった訪日外国人者数は2013年には1000万人を超え、一昨年(2019年)には3200万人と順調に推移してきました。そこに新型コロナ...2020年実数は約400万人 出国日本人者数も前年値2000万人から300万人と激減。合わせて85%減

一方、国内旅行に関しては7月よりGoToトラベルキャンペーンの一時的な効果があったものの対前年比約70%減の落込みとなっております。



未だ、出口の見えない状況が続いておりますが、人と人との交流は普遍的なものと考えられ今後、「観光」といわれるものが無くなることは到底考えられません。現状、特に観光産業は厳しい状況下ではありますが、アフターコロナに向けて新たな「観光」を模索してより一層のサービスを提供できるよう努めて参る所存であります。

### 吉田会員

30年前の葬儀の業界は閉鎖的で、世間には嫌われた仕事であったと思われま。日常生活で人の死、お葬式の事について話すということはタブーであったからです。葬儀は必要だという事、又葬儀に携わる会社も必要である事、生ある者は必ず死に、この世の定めであるというお釈迦様がお説きになられた「生者必滅会者定離」という言葉は皆さま理解されてると思われま。



最近の葬儀事情について2件程お話し致します。

1つ目は最近の葬儀は家族葬といわれる部外者を呼ばず身近な血縁関係者のみで執り行うものです。遠縁の親戚や近所の方々との付き合いが無くなり葬儀の意味合いが昔と今では変わりつつあります。

2つ目は直葬・火葬葬といわれる葬儀ともいえないものが増えつつあります。宗教者も近親者も呼ばず直ぐ火葬してお骨する方法であります。葬儀とは「葬送儀礼式」を略したもので私から言えば葬儀式とは言えません。自分主義になりすぎて、人として生まれてきた大事な命の大切さや、重さ、他人を思う心が欠如し何よりも他人に生かされているという事をわすれているから葬儀式が煩わしいと思っている人もいます。

今現在、コロナ禍であり未だ終息されない状況が続くと思われま。また、マスコミ等の影響もあり直葬・火葬葬も多くなると思われま。

人が地球上にいる限り、最愛の人を思う気持ちは変わらないと思いま。人間は他の動物と違い「情」というものがあります。その情は「愛情」という情です。愛情は縁という深いつながりの基にあり深ければ深いほど別れに接した時に死をまともに受入れる事が困難であります。その事をお釈迦様は生老病死の生の苦しみであり、八苦の愛別離苦の苦しみでると説かれました。

私が考えるお葬式とは、最愛の人との最後の決別の場であり、故人にとっては人生の終焉の儀式。ご家族の方が後に振り返って後悔しない事が一番大事であると受け止め真心と思いやりと温かな心でお手伝いさせて頂いております。